

地域のまちづくりに関する施策の提案

産業・経済・交通 編



テーマ「産業・経済・交通」

1 現状と課題

(現状)

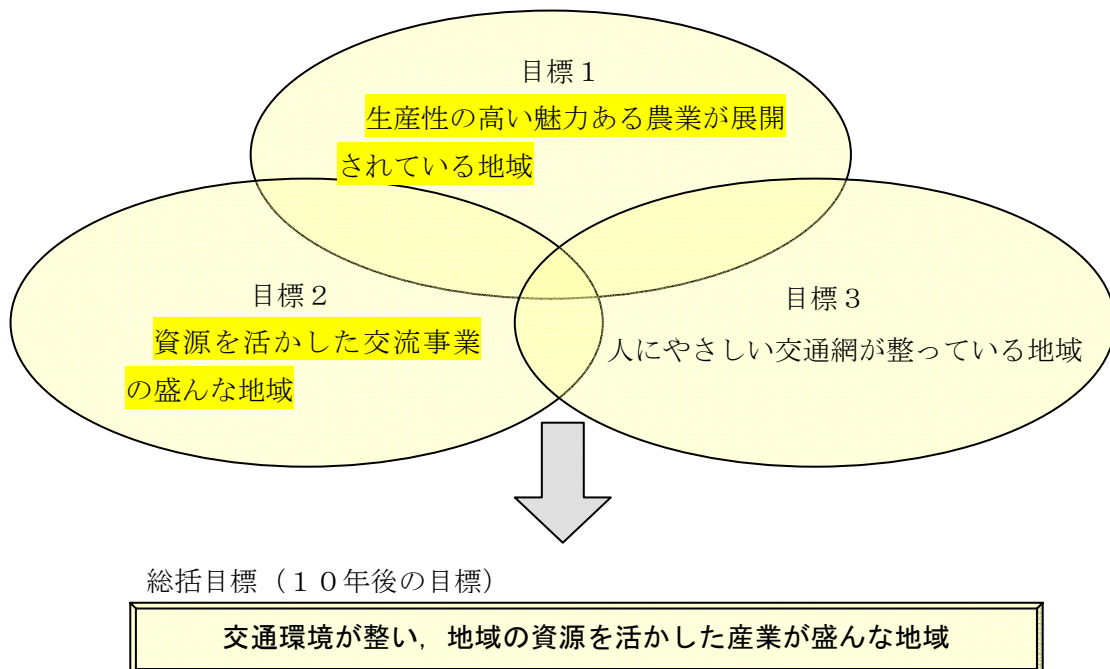
- ① 稲作のほか、いちごやゆずなどの特産物があるが、商品化・ブランド化されていない。
- ② 農業が盛んであるが、観光資源としてあまり活用されていない。
- ③ 水と緑などの自然環境に恵まれ、歴史と伝統に育まれている地域である。
- ④ 幹線道路の一部に狭隘な区間や、生活道路の一部に歩道未整備の区間がある。
- ⑤ 地域内に、地域路線バスやデマンドタクシーが運行されている。

(課題)

- ① 地域特産物を活用した商品開発を行い、差別化を図る必要がある。
- ② 観光農園などを充実させ、観光まちづくりと連携を図る必要がある。
- ③ 地域資源を活かした交流事業により、観光をより推進する必要がある。
- ④ スマート I C の利便性を活用し、地域の活性化を図る必要がある。
- ⑤ 公共交通機関の利便性の向上を図り、生活拠点機能を高めていく必要がある。

2 10年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ、3つの目標を掲げたうえで、10年後の目標を「交通環境が整い、地域の資源を活かした産業が盛んな地域」に決めました。



方 策

10年後の目標を実現するために今後進めるべき5つの方策

交通環境が整い、地域の資源を活かした産業が盛んな地域

目標1 生産性の高い魅力ある農業が展開されている地域

方策1 地域農産物を活かした農業の充実

地域の農産物を活かし、加工・販売するための異業種間の連携や6次産業化の促進により農産物の差別化を図るとともに、多様な経営体による生産性の向上と、収益性の高い個性豊かな農業を展開し、意欲ある多様な担い手を確保、育成する。

方策2 観光農園などの充実と観光のまちづくりとの連携

様々な農作物を観光農園や体験農業等の地域観光資源として活用し、地域農業の活性化を図るとともに、観光のまちづくりと連携させることで、農業の魅力を向上させる。

目標2 資源を活かした交流事業の盛んな地域

方策3 地域資源を活かした観光の推進

スマートICや国道293号、主要地方道藤原宇都宮線などの道路基幹軸の利便性を活かし、温泉・祭・伝統芸能などと連携した事業を行い観光を推進する。

目標3 人にやさしい交通網が整っている地域

方策4 道路整備の推進

生活上の交通の安全を確保するための歩道の整備、地域内の交通を円滑にするための道路の拡幅、新設等を行い地域の活性化を図る。

方策5 地域内交通の利用促進

地域路線バスとデマンドタクシーが地域内で安定した運行を行えるよう、利用者の視点により検証し、利便性の高い運行体系などを構築し、利用促進を図る。